

編集 後記

新緑が目に見え鮮やかな季節となりました。2026年度が始まり、新たな体制が徐々に定着し、日常が落ち着きを取り戻しつつある頃かと存じます。今月号は、原著5本、公衆衛生活動報告1本、資料1本を掲載しております。

本号の原著は、高齢者保健、たばこ対策、子どもの自尊感情の発達、栄養格差、女性の健康と、多様な領域を横断しつつ、いずれも現代の公衆衛生課題に対して実証的な知見が提示されています。光武氏らの論文では、後期高齢者の質問票と基本チェックリストを組み合わせることで、要介護認定リスクの高い層をよりの確に抽出できる可能性が示され、実務に直接資する成果といえます。萩本氏らの論文では、加熱式たばこの普及に伴う喫煙行動と禁煙試行の変化が明らかにされ、たばこ対策における新たな課題を提起しています。山崎氏らの論文では、家庭の経済状況やヤングケアラーの影響を考慮してもなお、親子関係が自尊感情に強く関連することが示され、様々な家庭環境に育つ子どもへのあらゆる支援において重要な知見といえます。阿部氏らの論文では、勤労世代における栄養格差について、雇用形態や家族構成との関連が多面的に分析され、これまで十分に可視化されてこなかった層の課題を明確にしています。現代社会の多様な生活背景を踏まえた食環境整備等の検討に資する重要な知見といえます。西尾氏らの論文では、タンポン使用の実態や安全行動の課題が明らかにされ、リプロダクティブヘルスの観点から啓発の必要性を示しています。これらはいずれも、個人の特性や行動、生活環境と健康との関連を適切な分析により丁寧に捉え、具体的な実践や施策へとつながる示唆を提供しています。

公衆衛生活動報告では、健康影響予測評価（HIA）をまちづくりに適用し、日本版チェックリストを開発した実践が報告されています。多様な関係者を巻き込んだワークショップ形式での評価プロセスは、全国各地で応用可能な有用な枠組みとなることが期待されます。資料では、食育と歯科口腔保健の計画間の連携状況が全国規模で整理され、自治体間の差異や今後の支援の方向性が

次号予告（第73巻・第6号）

原 著

飲食店における受動喫煙防止対策に関する情報収集、法令理解度および保健所での対応と法令遵守に関連する検討：飲食店経営者インターネット調査……………村木 功，他
日本全国の成人を対象とした目的別歩行時間に関連する要因：運動嗜好に着目した検討……………高橋美咲，他
サービス付き高齢者向け住宅の評価指標の開発の試み：社会参加とコミュニケーションに焦点をあてて……………王 鶴群，他
新型コロナウイルス感染症拡大下における妊娠から育児期の母親の心理的变化とその要因、およびレジリエンスによる重みづけ：ライフ・ライン・メソッドを用いた検討……………平野優子，他

終末期高齢がん患者の在宅療養期間と居宅介護サービスの利用：2018～2020年度全国介護レセプトに基づく観察研究……………眞浦有希，他

資 料

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が日本のがん罹患に与えた影響……………田中里奈，他
情報バイアスの定義、考え方と実例……………鈴木貞夫

示されています。

本誌では、引き続き公衆衛生の発展に資する多様な研究の投稿を歓迎しております。日々の実践や地域での取り組みから得られた知見は、学術的に共有されることで新たな価値を創造します。また、学会総会等での活発な議論を契機とした論文化も期待しております。今後とも、本誌への積極的なご投稿を心よりお願い申し上げます。

（植田紀美子）